

# 民生教育委員会行政視察報告書

## 1 視察期間

平成23年8月22日から平成23年8月24日まで 3日間

## 2 視察都市

- (1) 大阪府吹田市
- (2) 大阪府和泉市
- (3) 山口県岩国市

## 3 参加者

川崎和子委員長、村田光司副委員長、加藤文重委員、八木邦雄委員、  
稲垣あや子委員、小野泰弘委員、早川勝次委員、加藤治吉委員、増田暢之委員

同行 村松啓至学校教育課長

随員 田島真幸副主任

## 4 視察事項

- (1) 市の概況について(3市)
- (2) 小中一貫教育について(吹田市)
- (3) 公立病院の運営状況について(和泉市)
- (4) 障害者福祉施策について(岩国市)

## 5 考察

次のとおり

## 吹田市 人口：352,173人・面積36.11km<sup>2</sup>（平成23年4月1日現在）

### 1 小中一貫教育について

#### (1) 概要

吹田市の北部に位置する千里ニュータウンは、現在再び人口が増加傾向にあるものの、住人は高齢化し、特に子どもの激減が問題となっている。

小中一貫教育設置の背景には、小学校から中学校移行期に不登校生徒数や校内暴力発生件数の増加（3～6倍）、学習意欲の低下などがある。平成23年4月より竹見台中学校と千里たけみ小学校・桃山台小学校の3校からなる施設分離型の連携型小中一貫校「千里みらい夢学園」を開園した。これまでの小中独自の教育方針や指導方法で教育活動を行うのではなく、小中が一貫性を持った教育方針や指導方法で連携し、9年間で5・2・2の3つのユニットで構成しながら「確かな学力」「豊かな心」「たくましい体」の育成を目指した「15歳の学力」に責任を持つ取り組みを進めている。

特色ある取り組みとしては、小6の中学校登校 英語教育の充実（小中9年間の英語活動・英語科を生かしたコミュニケーション能力の育成） 高校との連携（キャリア教育） 学力向上の取り組み 地域との連携（地域の子どもと大人がともに学べる場）がある。小中一貫教育の進め方として、組織図と年間計画を作成する 小中管理職の連絡を密にする 小中一貫コーディネーターを各校1名選出する 教職員に達成感を感じさせる 教職員の親睦を忘れないなど。組織としては、小中一貫教育推進会議（校長・教頭・コーディネーター・事務・市役所）を中心とした推進体制を機能させ、小中連携、幼小中連携にも留意し、中学校地区全体で目指す子ども像を共有し、小中一貫教育の充実を図っている。課題は、今回初めて連携体制をもった桃山台小の保護者の一貫教育への理解にはしばらく時間がかかることである。

#### (2) 考察

吹田市は子どもが地域から激減した背景の中で、「学校の統廃合」と「9年間の連続性を踏まえた教育活動の推進」という2つの側面から小中一貫を取り入れたと感じる。英語教育をはじめ、算数・数学科、国語科など9年間を見通したカリキュラムを小中学校の教員で研究していく取り組みは興味深い。また、一貫教育は不登校・学習意欲の低下などの子どもの実態を学校の課題として考える良い機会であり、組織としての強化になると感じた。

## 和泉市 人口 187,026 人・面積 84.98 km<sup>2</sup> (平成 23 年 4 月 1 日現在)

### 1 公立病院の運営状況について

#### (1) 概要

和泉市立病院は昭和 38 年に発足し、現在の一般病床数は 307 床である。この数年間、医師不足によって、公立病院として経営が非常に厳しい状況にあった。収入確保の取り組みとして、平成 21 年から既存の診療領域を特化し、心臓・血管・腫瘍診療部門・人工関節・発達障害サポート・子どもメタボリック支援・肝臓病・がんの 7 つの診療センターを開設した。また、総合内科（院長診察）夜診（内科、外科）無料の患者送迎バス等も行っており、市民のニーズに応える体制が整備されつつある。

#### (2) がんセンター

当院は、放射線治療器（リニアック）の導入や病理医を招くなど、泉州地域屈指のがん診療病院となるが、消化器内科医を中心として医師引き上げがあり厳しい状態となった。そこで、近畿大学名誉教授の指導のもと平成 22 年 7 月より、がんセンターを開設した。がんセンターの構成は外来化学療法室・急性期病棟・緩和ケア病棟からなり、24 時間対応で行う。また在宅患者に対して、主治医と在宅支援診療所が連携して時間外緊急時対応できる体制をつくる中、「あんしんカード」システムを導入し、時間外緊急時には在宅支援診療所の担当者がまず対応し、当院への受診が必要と判断した時は救急担当医に連絡する流れになっている。当院のがん治療は、早期から緩和ケアを取り入れており、緩和病棟には談話室、カンファレンス室、家族部屋などが整備されている。また、他病院とのがん医療ネットワークを立ち上げており、大阪府も協力して環境を整備している。課題は、在宅のがん患者の 24 時間対応で時間外緊急体制が充分でないこと、腫瘍内科医常勤医が少ないこと、がん専門薬剤師やがん専門看護師等がないことなどである。

#### (3) 考察

7 つの診療センター化は市民に分かりやすい。当がんセンターは治療の早期段階から緩和ケアを取り入れ、緩和ケア認定看護師も置いている。カンファレンスは医師だけでなく、臨床心理士やスピリチュアルケア等も加わり、患者や家族の精神ケアにも配慮していることは重要である。また、地域の在宅支援診療所との連携を大切にし、あんしんカード導入など在宅がん患者が 24 時間安心して医療を確保する仕組みは、がん拠点病院の機能として重要と考える。

## 岩国市 人口 146,677 人・面積 873.78 km<sup>2</sup> (平成 23 年 4 月 1 日現在)

### 1 障害者福祉施策について

#### (1) 概要

岩国市は平成 18 年に 8 市町村が合併して誕生した。米軍の基地のまちである。福祉事務所は社会課、高齢障害課、こども支援課に分かれている。社会課に災害救助、高齢障害課にこども医療事務が入っており特徴がある。高齢化率は 28.8%(全国平均が 23%)で高い。最近、障害児等総合療育相談訓練事業の利用者が急激に増加している。利用者の 9 割は発達障害児または発達に困り感のある方で、療育手帳等がない児童である。

#### (2) 岩国市障害者情報交流センター「僕たちの空」

当センターは、平成 21 年に設立。岩国圏域の障害者や高齢者の方々が、現在の障害者施設のように市街地から離れた場所ではなく、賑わいのある駅前で気軽に買い物や映画などの娯楽を楽しむことができるように、ちょっと疲れたときなどに遠慮なく休憩できる、多目的トイレ等が設置されているなどバリアフリー化された施設である。機能として 2 つのセンターがある。1 つは障害者ネットワーク推進センターで、「ふれあい e タウンいわくに」の HP を作成し、施設別スケジュールを掲載したり、楽しく掲示板を使って交流している。当センターは障害者雇用をしている。「ふれあい e ショップ」では授産施設の手作り商品をネット販売している。また、車いすや電気カートなどは無料貸し出しをしている。2 つ目は障害者就業・生活支援センター蓮華で、就職を希望される方や、「働くこと」「暮らすこと」に関して悩みや困りごとを抱えている方に対して、就労と生活の両方から相談・支援を行う。また、関連機関との連携を通して雇用主と障がいのある方の雇用を全面的にバックアップしている。課題は、本来の目的である交流センターに高齢者や障害者の方々が個人で気軽に利用することと、センターの周知がもっと市民に定着することなどである。

#### (3) 考察

障害者ネットワーク推進センターの場所の位置づけはとて素晴らしいが、高齢者や障害者が映画や買い物などを気軽に楽しむことはほとんどないので利用促進のための方策を考える必要があると思う。蓮華においては、専門の方が常にセンターの動向を検証しているので、今後ますます障害者雇用のマッチングの拠点として重要な役割を担っていくと感じた。